（別記様式第３号）

普及活動検討会実施報告書

仙台農業改良普及センター
実施月日：令和６年２月２日
実施場所：仙台合同庁舎 1001 会議室

１　検討内容

No	検　討　項　目
1	令和５年度普及指導活動について 「プロジェクト課題の取組状況について」 No.1 農村の維持発展を支える法人経営の体質強化 No.2 土地利用型法人によるえだまめ生産体系の導入定着 No.3 次代を担う生産者の育成による梨産地活性化 No.4 水稲乾田直播栽培の技術定着による収量向上

２　検討委員の構成

（単位：人）

区　分	人数	区　分	人数
先進的な農業者		生　活　者	1
若手･女性農業者	1	学識経験者	1
市　町　村	2	マスコミ	
農業関係団体	2	民間企業	

３　委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント，評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
１令和５年度普及指導活動について No.1 農村の維持発展を支える法人経営の体質強化	A委員 4	・新しい園芸、ソバの加工品など右肩上がりに実績をのばし、法人も手ごたえを感じたのではないでしょうか。 ・２名若手が入ったとのことですので、数年で辞めさせないようにするためには、先が見える職場にすることです。	・新たに確保した構成員定着のため、就業規則を整備すべく、ＪＡ仙台の担当課と連携して作業をすすめています。
		・先が見えるようにするためには、役員がその年だけでなく、この先どのようにしていくか？中期事業計画や今後の取組みで社員に先を見せること、月間作業計画、週間計画など作業計画も同様です。このあたりも切り込めるとよかったかと思います。	・令和２年度に組織としての中長期計画を策定しておりますが、見直しを兼ねて、改めて構成員と共有していくことを検討します。
	B委員 4	・生産者では手が回りにくいポイントに適切な指導がされ、実績につながったと思います。 １．窒素成分の異なる基肥肥料の使い分けによるコスト削減 ２．播種量・砕土率の検討 ３．限りある労働力を最大限に生かし、水稲と重ならない新規園芸品の導入	
	C委員 4	・数値目標に対しての実績がかなり上回り、成果が出たと思います。2 名の新たな人員の確保は評価に値します。乾燥調整施設の導入を今後考えるのであれば、10 年以上後を見越して、構成員の若返りが、さらに必要と思います。秋保地区は様々な害獣被害の多い所です。それに見合った作物の選定も、今後考慮する必要があると思われます。	・今回構成員を２名確保しましたが、まだ十分とは言えない状況です。地域への働きかけだけでなく、地域外へのアプローチなども検討が必要だと考えています。 ・獣害については、ワイヤーメッシュ柵の設置や年１回の点検に加え、ほ場には電気柵を設置するなど対策していますが、完全に防ぐことはできないでいます。獣害の少ない作物などについても情報収集に努めます。
	D委員 3	・困難な課題によく向き合い、組合からの信頼を得らえるようになったことは、喜ばしい。 ・ここで、プロジェクトとしては、一区切りとなるが、引き続き支援を続ける必要があると思う。	・プロジェクト課題としては設定した期間を終了しますが、今後も継続して支援して参ります。
	E委員 5	・水稲・そばについては、猛暑の影響で反収が低かったようだが、大豆については収量が増加し、全体的に見て成果が出たものと考える。排水対策等や適期管理作業、鳥獣被害対策等を実施することによる、品質及び収益向上に期待する。また、新規園芸品目生産の取組も積極的に行われているようで、担い手の確保に繋がる取組として評価できる。	・全体的に売り上げは伸びていますが、解決すべき課題は残っており、今後も支援して参ります。 ・新たに確保した構成員定着のため、就業規則を整備すべく、ＪＡ仙台の担当課と連携して作業をすすめています。
	F委員 5	・生産組合の課題を良く捉えており、課題克服に向けた目標設定も良かったと思う。 ・一応の課題期間終了のことではあるが、来年度に乾燥調製施設の導入も検討されていることから、今後も引き続きご支援をお願いできればと思います。	・プロジェクト課題としては設定した期間を終了しますが、今後も継続して支援して参ります。
	G委員 4 平均点 ４．３	・新たに構成員２名を雇用するようですが、安定的な雇用になるよう労働環境整備に努められたい。また、乾燥調製施設導入とのことだが、農業生産組織の運営については、農業政策により大きく左右されるので、水張ルールの５年要件なども含めた検討も必要となってくると思われる。生産技術支援については、基準年よりも高位に増収されているところが評価できる。	・新たに確保した構成員定着のため、就業規則を整備すべく、ＪＡ仙台の担当課と連携して作業をすすめています。 ・農業施策の変化に伴う課題に対しても継続して支援して参ります。
No.2 土地利用型法人によるえだまめ生産体系の導入定着	A委員 5	・大型法人が枝豆を取り組むことで、作業分散、大豆以外の収益の可能性を見出すことができた成果は大きいと思います。排水対策の重要性を法人が理解でき収量が右肩上がりであがったこと、法人との信頼関係もできていったのを感じました。 ・農事組合法人では、意外と稲作は個人プレーですが、枝豆を取り組むことで皆で作業をしてチーム力の向上、社	・土地利用型法人において、露地園芸に取り組むにあたっては、排水対策の実施や、機械化による省力化、作業の季節的な分散などが重要となります。これらは、今後園芸振興を図っていく上で、他の土地利用型法人などでも共通の課題となり得ることから、今回の対象者の取り組みをモデルとして、成果を横展開できるように努めます。

		員の活用にもつながるので、この取り組みを手引き書で広めて行って欲しいです	
	B委員 5	・基本的な栽培技術の習得、肥培管理にとどまらず、排水対策は支援がなくては非常に難しい課題だったと思います。また、法人間で作付けが重ならない体系づくり、仕組みづくりは安定した経営につながると考えます。	
	C委員 4	・総合評価や達成度をみても、高い達成度と思いました。R4年の自然災害など様々なことがありましたが、その教訓を、さらに栽培技術の向上にいかした点は評価に値すると思いました。枝豆の販売価格や、供給過多の時期などもあります。温暖化に合わせた、品種や栽培方法を考慮していく必要があると思います。	・温暖化の進展が危惧されますが、毎年の作の振り返りにおいて気象状況や作柄なども踏まえながら、品種や作型の見直しなどの検討を支援していきます。また、県の試験場においても、気候変動に適応した農業技術の試験研究の取り組みを行っており、これらの研究成果や地域への適合性なども踏まえながら、技術の普及推進を図っていきます。
	D委員 5	・目標設定に対して、適切な活動により、実証しており、良好な結果が得られている。	
	E委員 5	・今年度は、排水対策により雨の影響が少なかったこと、適期管理作業により、令和５年度の定量的数値目標を大幅に上回った。今後、スマート農業との相乗効果も期待されるとのことなので、地域内の収穫時期の分散、栽培スケジュールの共有など、各法人や関係機関との連携を強化することで、他法人のモデルとして評価できる。	
	F委員 5	・栽培技術も著しく向上し、収量・品質とも申し分ない結果が得られている。この結果、２法人とも更なる生産拡大に向けて意識も高まっており、産地化が進んでいる点がすばらしい。	
	G委員 5 平均点 ４．８	・今年度は排水対策が確実に活かされ、増収につながり生産意欲の向上にもつながっている。更に次年度の作付面積も６ha から９ha へと作付面積の拡大も見込まれ支援の成果が顕著に表れている。プロジェクトは完了とのことだが、今後もご支援・協力はお願いいたしたい。	・令和５年度でプロジェクト課題としての活動は終了となりますが、さらなる面積拡大が予定され、産地の発展が期待される状況となっていることから、次年度も関係機関とともにフォローアップしてまいります。
No.3 次代を担う生産者の育成による梨産地活性化	A委員 5	・新しい会の立ち上げのご苦労は大変であったかと思います。農家は個人ごとで孤独でもあるので、こうした皆さんが集まる場作りに若手や新規就農者を取り込めたことは大変大きいと思います。	・産地協議会の設立を契機とし、国補助事業の活用に取り組む予定です。若手生産者を含む産地全体で生産力向上の取組が促進されるよう支援してまいります。
		・ワイヤーなど新しい技術提供や、施肥、防除の開催を別々にするなど工夫もされた点も感じられました。今後は、会の継続のために、自立できる体制つくり、役員など一部の人が負担にならない全員参加型のルールなど作れるといいかと思います。	・防鳥ワイヤーなどの新技術については、今後も会員全体への情報共有に努めたいと考えています。会の運営については、会員の意向を確認しながら、効果的な運営となるよう支援してまいります。
	B委員 4	・防鳥ワイヤーの設置、肥料、土壌研修会等、適切な指導が技術向上につながったと思います。対象者は若手４人ですが、結果として産地全体の活性化につながったとも感じています。	・今後も、新技術の導入や土壌関係などの基本技術について支援を行うことにより、産地全体に情報共有を図り、産地の生産力の底上げにつながるよう引き続き活動を行ってまいります。
	C委員 3	・防鳥ワイヤーなど、高齢化した農業者への技術促進には評価に値すると思いました。ただ、今年の梨産地の一番の問題は夏の暑さでした。梨産地の活性化をプロジェクト課題にするのであれば、今後この温暖化に合わせた、早い時期からの、新技術、新品種の導入が必要と思われます。また、利府の開発による農地の減少も考える必要があると思われます。	・防鳥ワイヤーなどの省力技術の導入については、引き続き支援を行ってまいります。夏の高温や凍霜害など気象変動に関する対応策については、試験研究機関とも連携しながら適切な情報発信に努めるとともに、国補助事業等の活用により潅水装置などの設備導入についても支援してまいります。また、梨産地としての農地維持については、利府町と連携し、地域おこし協力隊などの新たな担い手の確保とあわせて、支援してまいります。
	D委員 4	・１年目で産地協議会を設立するなど、順調に進んでいる。この調子で２年目、３年目も頑張って欲しい。	
	E委員 5	・新技術・省力化技術等、取組み成果があったものについては、部会員に情報提供し、積極的に取り組んでほしい。利府梨は需要があることを会員がさらに認識し、刺激しあうことにより、生産への意欲も増すと思われるので、ネットワークの強化に期待する。	・新技術や省力技術の成果については、情報誌や各種研修会などにおいて情報発信を行ってまいります。また、若手の生産者を中心としたネットワークづくりについては、生産者の要望に応じながら研修会等の開催を通じて、技術研鑽の場づくりに努めてまいります。
	F委員 5	・利府地区の梨は非常に人気があり、品薄状態となっております。その反面、梨生産農家の高齢化が進み栽培面積は縮小しており、消費者からの要望に応えられていないところです。利府町役場でも喫緊の課題と捉えておりますので、関係機関の連携を図りより実効性のある取り組みを実現していただければと思います。	・今後も引き続き関係機関と連携を図りながら、産地の生産力向上に向け、R6年度は国補助事業の活用を進めるほか、天敵製剤の活用拡大に取り組むなど、部会内の情報共有も図りながら技術力の向上支援に取り組んでまいります。
	G委員 4 平均点 ４．３	・温暖化の影響で過去の技術や各品種の養生期間など変わってきていると思われる。それらも含めたフォローが必要と思われる。また、視察研修等を通じ、施肥設計の改善等が必要なことも認知され、今後の生産意欲等につながったもの思われる。また、農業分野で初の防鳥ワイヤーへの切り替えなどにチャレンジし成果も得られたことも評価できる。	・夏の高温や凍霜害など気象変動に関する対応策については、試験研究機関とも連携しながら適切な情報発信に努めるとともに、国補助事業等の活用により潅水装置などの設備導入についても支援してまいります。
No.4 水稲乾田直播栽培	A委員 5	・新しいことに意欲的な人が集まり、会員どおしの交流ができていったことが大きな成果であったと思います。プ	・来年度以降も情報提供など支援を継続したいと考えております。今回の活動の中で作成した栽培の手引き等も活用し、普

の技術定着による収量向上		ロジェクトを成功させるには、意欲的な参加者をどう巻き込むかが大事ですが、3 年間丁寧に関係づくりが成功の要因だと思います。今後は、この実績を広めるための冊子つくり、定期的なセミナーなども継続させてほしいです	及拡大に努めたいと思います。
	B委員 4	・課題に対して適切な指導が行われ、結果が伴い、産地内で共有されるとても良いサイクルが築けたと思います。	・今後も取組者に対して情報提供を継続して行いたいと考えております。
	C委員 4	・労働時間をあまり考慮しない農業に対しての調査などグラフ化や、見やすい栽培の手引きなどの活動が良いと思います。雑草の防除など、天候に左右されることも多い中、基本技術の定着は高い評価と思います。活動期間が 2 年という点が、2 回の試作しかないこと、また、砂地の、平地の、わりと雨の被害の少ない農地の成果が、今後活かせるかが課題と思いました。	・乾直連作ほ場や砂質のようなほ場も多い仙台湾沿岸地域では、特に雑草防除が課題となりやすい面もあったかと思います。次年度以降に取り組む黒川地域では、特有の課題を洗い出し、対応策を考える必要があります。基本の雑草対策や粘土質ほ場での栽培事例等については、今回の取り組みで得られた成果を活かせるよう活動してまいります。
	D委員 5	・参加者の増など、目標の反収以外の点でも効果が顕著であった。次年度は、黒川地域の実証となるが、水稲乾田直播の普及促進に伝められたい。	・黒川地域でも良い栽培事例ができるよう、課題に取り組みたいと思います。
	E委員 5	・圃場の漏水対策、雑草防除等乾田直播栽培技術の向上定着に取組み、移植栽培と同等の収穫ができたことを評価する。また、この取組の成果を他の経営体にも情報共有し、今後の活動により、県内全域への普及の輪が広がることを期待する。	・今後も取組者に対して情報提供を継続して行いたいと考えております。
	F委員 5	・乾田直播の技術を取り入れた農家は年々増加しており、技術も定着しつつあり、また、生産者間のネットワークが形成された点が素晴らしい。	・今回の活動では勉強会の案内や会場提供等ご協力いただきありがとうございました。予想以上に生産者間での情報交換が深まり、自立した活動も期待できると思います。今後も乾直の普及拡大に努めたいと思います。
	G委員 4	・今後、リタイヤ農家の受け皿になるのは、大規模担い手で更なる集約が進むと見込まれる。労働力・コストの面からも当該生産技術が有効と思料するため、早期の技術確立をお願いしたい。また、技術指導はもとより、現場のネットワークによる情報共有の場の提供を実施されたことにより相互研鑽が図られたことが特に評価できる。	・ほ場条件が悪いという声も黒川地域では聞かれますが、将来条件が整った際に新規取組者がスムーズに始められるよう、来年度から早期に技術確立できるよう支援したいと考えております。
	平均点 4．6		
2その他	A委員	・所長の「今、動かないと産地がなくなってしまう」この言葉は今後の農業の課題そのものであり、農業関係者が今動かないといけない大事なメッセージだと受け取りました。今のうちにベテラン農家で眠っているノウハウを見える化して、仕組みとして次世代に継承していかないと、生産性の悪い農業になってしまうこと大変危惧しております。	・ベテラン農家が持っているノウハウの見える化やスマート農業の活用等により、技術等が次世代に継承するような仕組みづくりを進めてまいります。
	B委員	・どれも産地を問題解決に導き、自走する道筋を作るすばらしい取り組みでした。該当組織にとどまらず県内産地へ成功事例を発信いただき、各産地での気づき、改善、経営安定につながるようにしていただきたい。水稲乾田直播は労働力不足の中、これからさらに重要な位置づけになりますが、県認証、みどりの食料システム戦略とどう整合性を取るのか。乾田直播の県認証等も検討いただけたらと思います。	・今後も水稲乾田直播栽培を推進する上で、県認証やみどりの食料システム戦略への取り組みは課題と考えており、行政や関係機関、試験研究と連携を図りながら検討してまいります。
	C委員	・25 年後には、農家数が 80%減少すると確定しています。日本の食を支える必要があります。家族経営、中規模農業者、法人化など大規模農業など、それぞれにあった支援が必要と思いました。	・現状では、法人を中心とした支援をしており、周辺への波及を期待しております。一方で、ご指摘のように農家の経営形態・規模等にあった支援が必要と思われますので、どの様な手法で効率的な支援ができるか検討してまいります。
	F委員	・水田農業の技術的な部分では、東日本大震災以降西部地区は取り残されてしまったような感があります。西部地区に相応しい新技術があれば普及の検討をお願いしたいです。	・仙台西部地区においては、排水不良や獣害など困難な問題もありますが、相応しい技術を模索してまいります。
		・温暖化・異常気象に対応した技術等の具体的な提案をお願いしたいです。	・温暖化は、全ての作物生産に影響を及ぼしていますので、品種や栽培方法を含め最新の情報を収集して、農業者へ情報提供していきたいと思います。
		・私は食べたことが無いのですが、乾田直播の米は「おいしい！」という話を生産者から聞きました。また、「環境保全米にはならないの？」という声も出ております。中々難しい内容も含まれておりますが、ご検討いただければと思います。	・水稲乾田直播栽培を推進する上で、県認証やみどりの食料システム戦略への取り組みは課題と考えており、行政や関係機関、試験研究と連携を図りながら検討してまいります。
	G委員	・農業を取り巻く厳しい環境の改善はいまだ見通せませんが、少しでも生産に意欲をもって取り組めるよう今後も各方面からご支援をお願いします。	

※：検討項目数に応じて欄を追加し記載する